

## 富山市公共ます及び取付管新設等写真提出時のチェックリスト

提出日 1 (仮復旧まで) : 年 月 日 (局側でコピーして施工者へ一旦返却する)

提出日 2 (本復旧まで) : 年 月 日 (最終提出段階)

工事の施工者名 :

局側確認者 :

仮復旧及び本復旧写真提出時に、以下のリスト太枠内にチェックを入れて写真と合わせて提出する。

(注：該当箇所すべてにチェックが入る。確認できない場合、施工やり直しをお願いする場合があります。)

項目	チェック内容	実施確認	写真添付	局側確認
1. 舗装切断	舗装版は、掘削直前に必要最小限の範囲でカットしたか。(掘削直前に舗装切断している写真をつけたか。)			
2. 取付支管	取付支管設置は可とう性簡易型を使用し、設置角度は45度を標準とし、それによらない場合は取付管底が本管の中心より上方に設置したか。(可とう性簡易型取付支管を設置した写真、取付管全体が分かる写真をつけたか。)			
3. 公共ます	3方向orフリーインバートタイプの公共ますを官民境界から1m以内、深さ80cm以上に設置したか。(箱尺を入れ、公共ますが設置された写真をつけたか。)			
4. 埋戻し	取付管の支管部、直管・曲管部は砂で巻き立てたか。(管の下部 10cm、上部 10cm を確保し、十分に締固めている写真をつけたか。)			
	路床と下層路盤の間に下水用埋設標識シートを置いたか。(箱尺を入れ、路床最上面に下水用埋設標識シートを敷設した写真をつけたか。)			
	路床は一層の仕上厚が 20cm を超えないように振動ローラ or タンパで十分に締固めたか。(箱尺を入れ、各層全ての写真をつけたか。)			
	下層路盤、上層路盤は一層の仕上厚が 15cm を超えないように振動ローラ又はタンパで十分に締固めたか。(箱尺を入れ、各層全ての写真をつけたか。)			
	掘削深 1.5m を超える場合、土留工(軽量鋼矢板 or 建込み簡易土留め)を使用したか。(軽量鋼矢板 or 建込み簡易土留めを使用した写真をつけたか。)			
	軽量鋼矢板 or 建込み簡易土留めを使用して埋戻す際、埋戻土で埋まる部分の土留材を引抜後に転圧したか。(箱尺を入れ、土留材を段階的に引き抜きながら転圧した写真をつけたか。)			
5. モルタル 充填	歩車道境界ブロック、横断暗渠、側溝、消雪等の道路構造物下を掘削した場合は、転圧できない部分をモルタル充填したか。(箱尺を入れ、埋戻しに合せ下・中・上と段階的にモルタル充填した写真をつけたか。)			
6. 密度試験	(県・国道の場合)上層・下層路盤において、現場密度試験を実施したか。(各路盤において、現場密度試験を実施した写真をつけたか。)			
7. 仮復旧	路盤最上面にアスファルト乳剤を全面散布し、指定の材料、舗装厚で仮復旧したか。外側線等が引かれていた場合、引き直したか。(箱尺を入れ、仮復旧(側線等入)したことが分かる写真をつけたか。)			
8. 本復旧	仮復旧後1ヶ月以上経過したのち、本復旧直前にカッターを入れ、影響部を含めて舗装版を撤去したか。			
	路盤最上面にアスファルト乳剤を全面散布したか。(左記が分かる写真をつけたか。)			
	切断面に舗装用目地材(成形目地材)を使用したか。(切断面に舗装用目地材(成形目地材)を使用した写真をつけたか。)			
	指定の材料、舗装厚で転圧・本復旧したか。外側線等が引かれていた場合、引き直したか。(指定の舗装厚で本復旧(側線等入)したことが分かる写真をつけたか。)			